

# 納入仕様書

仕様書番号

発行日 2025年9月

御中

Non-Controlled Copy

貴社品名

弊社品名

キャップ付積層セラミックチップコンデンサ  
(メガキャップ CA シリーズ)  
テーピング仕様【RoHS2 対応品】  
CAA572, CAA573 タイプ  
X7R, X7S, X7T, X6T 特性

表紙にご署名または記名捺印の上、納入仕様書を TDK 担当者までご返却下さい。

本納入仕様書のご返却なくご注文を頂いた場合は、貴社にて本仕様書が受領されたものと  
判断いたします。

受領印欄

受領日 年 月 日

TDK株式会社  
販売  
電子部品営業本部

技術  
電子部品ビジネスカンパニー  
セラミックコンデンサビジネスグループ

責任者	担当者

責任者	確認者	担当者

## 適用範囲

本納入仕様書は\_\_\_\_\_ 殿へ納入するキャップ付積層セラミックチップコンデンサ（メガキャップ CA シリーズ）に適用します。

## 生産拠点

本納入仕様書に定める製品の生産拠点はTDK株式会社、廈門TDK有限公司、TDK（蘇州）電子有限公司、TDK Components U.S.A., Inc.とする。

## 製品名称

本納入仕様書に定める製品の名称はCAA57◇○○○△△□□□×とする。

## 関連規格

JIS	C 5101-1 : 2010	電子機器用固定コンデンサ第1部：品目別通則
	C 5101-22 : 2014	電子機器用固定コンデンサ第22部：品種別通則：表面実装用固定積層磁器コンデンサ種類2
	C 0806-3 : 2014	自動実装用部品の包装－第3部：表面実装部品の連続テープによる包装
JEITA	RCR-2335 C 2014	電子機器用固定磁器コンデンサの安全アプリケーションガイド

## 記載項目

1. 品名およびその構成
2. 使用温度範囲
3. 保存条件と保存期間
4. 廃棄処理について
5. 性能
6. 内部構造図および使用材料
7. 包装
8. 推奨条件
9. はんだ付け条件
10. 使用上の注意
11. テーピング仕様

## 『お断り』

製品仕様に疑義を生じた場合は本納入仕様書を優先し、双方の関係部署間で協議を行った上で、文書による仕様変更で確認する事とします。

本納入仕様書はコンデンサ単品の品質を保証するものであり、ご使用に際しましては貴社製品に実装された状態で必ず評価及び確認をして下さい。

本納入仕様書の範囲を超えて本製品をご使用された事によって発生した不具合につきましては、弊社では保証致しかねます事をご了承願います。

事業部	作成日	仕様書番号
セラミックコンデンサ ビジネスグループ	2025年 9月	

## 1. 品名およびその構成

(例) C A A 5 7 3 X 7 S 2 A 4 7 6 M T ○○○○  
 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)

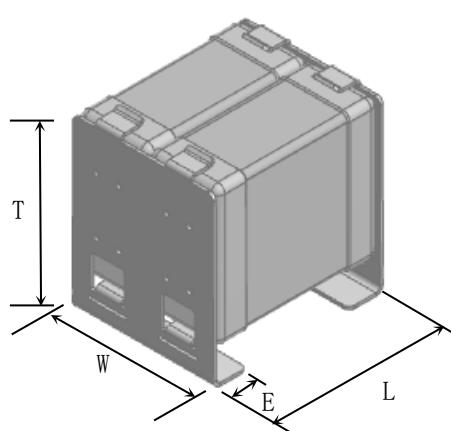
(1) シリーズ名を表す。

記号	シリーズ
CA	メガキャップ CAシリーズ

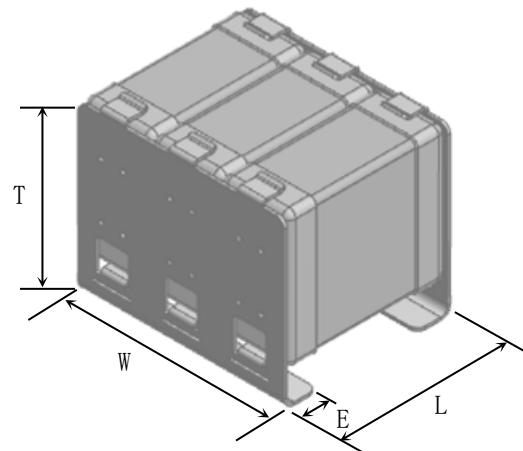
(2) 予備記号を表す。

(3) 形状を表す。

CAA572 : 2連タイプ



CAA573 : 3連タイプ



形状記号	構造記号	寸法 (mm)			
		L	W	T	E
57	2	6.00±0.50	5.00±0.50	6.40±0.50	1.20±0.20
		6.25±0.50	5.00±0.50	6.70±0.50	1.20±0.20
57	3	6.00±0.50	7.50±0.50	6.40±0.50	1.20±0.20
		6.25±0.50	7.50±0.50	6.70±0.50	1.20±0.20

\* 品名の詳細につきましては、TDK webをご参照下さい。

(4) 構造を表す。

記号	構造
2	2連タイプ
3	3連タイプ

(5) 静電容量温度特性を表す。

\* 詳細は、5. 性能(表-1)の番号6による。

(6) 定格電圧を表す。

記号	電圧
2 J	DC 630 V
2 W	DC 450 V
2 V	DC 350 V
2 A	DC 100 V

記号	電圧
1 H	DC 50 V
1 V	DC 35 V
1 E	DC 25 V

(7) 公称静電容量値を表す。

公称静電容量を表す記号は、3数字で表す。第1及び第2数字はピコファラド(pF)単位とした公称静電容量の有効数字とし、第3数字は、これに続く零の数を表す。

(例)	
記号	静電容量値
476	47,000,000 pF

(8) 静電容量許容差を表す。

記号	許容差
M	± 20 %

(9) 包装形態を表す。

記号	包装形態
T	テーピング

(10) 弊社識別記号を表す。

## 2. 使用温度範囲

温度特性	最低使用温度	最高使用温度	基準温度
X7R/X7S/X7T	-55°C	125°C	25°C
X6T	-55°C	105°C	25°C

## 3. 保存条件と保存期間

保存温度	保存湿度	保存期間
5~40°C	20~70%RH	納入後 6 ヶ月以内

## 4. 廃棄処理について

当製品は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に準拠し処理されるようお願い致します。

## 5. 性能

表-1

番号	性能項目	性 能	試験方法および条件																
1	外 観	著しい異常のないこと。	拡大鏡(3倍)による。																
2	絶縁抵抗	500MΩ・μF以上。	測定電圧：定格電圧 (DC630V 品は DC500V) 電圧印加時間：60s.																
3	耐電圧	絶縁破壊および破損のないこと。	<table border="1"> <tr> <td>定格電圧</td> <td>印加電圧</td> </tr> <tr> <td>定格電圧≤100V</td> <td>定格電圧の2.5倍</td> </tr> <tr> <td>100V&lt;定格電圧≤500V</td> <td>定格電圧の1.5倍</td> </tr> <tr> <td>500V&lt;定格電圧</td> <td>定格電圧の1.3倍</td> </tr> </table> <p>印加時間：1s. 充放電電流：50mA以下</p>	定格電圧	印加電圧	定格電圧≤100V	定格電圧の2.5倍	100V<定格電圧≤500V	定格電圧の1.5倍	500V<定格電圧	定格電圧の1.3倍								
定格電圧	印加電圧																		
定格電圧≤100V	定格電圧の2.5倍																		
100V<定格電圧≤500V	定格電圧の1.5倍																		
500V<定格電圧	定格電圧の1.3倍																		
4	静電容量	規定された許容差内にあること。	<table border="1"> <tr> <td>静電容量</td> <td>測定周波数</td> <td>測定電圧</td> </tr> <tr> <td>10μF以下</td> <td>1kHz±10%</td> <td>1.0±0.2VRms.</td> </tr> <tr> <td>10μFを超えるもの</td> <td>120Hz±20%</td> <td>0.5±0.2VRms.</td> </tr> </table>	静電容量	測定周波数	測定電圧	10μF以下	1kHz±10%	1.0±0.2VRms.	10μFを超えるもの	120Hz±20%	0.5±0.2VRms.							
静電容量	測定周波数	測定電圧																	
10μF以下	1kHz±10%	1.0±0.2VRms.																	
10μFを超えるもの	120Hz±20%	0.5±0.2VRms.																	
5	tan δ (誘電正接)	詳細につきましては、TDK web をご参照下さい。	測定条件は、番号4の静電容量に準ずる。																
6	静電容量温度特性	<table border="1"> <tr> <td>静電容量変化率(%)</td> </tr> <tr> <td>電圧印加なし</td> </tr> <tr> <td>X7R : ± 15</td> </tr> <tr> <td>X7S : ± 22</td> </tr> <tr> <td>X7T : + 22 - 33</td> </tr> <tr> <td>X6T : + 22 - 33</td> </tr> </table>	静電容量変化率(%)	電圧印加なし	X7R : ± 15	X7S : ± 22	X7T : + 22 - 33	X6T : + 22 - 33	<p>測定段階は下表により、それぞれの段階温度の熱平衡に達してから測定する。 基準温度は段階3とする。</p> <table border="1"> <tr> <td>段 階</td> <td>温 度 (°C)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>基準温度±2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最低使用温度±2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>基準温度±2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>最高使用温度±2</td> </tr> </table> <p>最低、最高使用温度および基準温度につきましては、2. 使用温度範囲をご参照下さい。 測定電圧は、営業担当者へお問い合わせください。</p>	段 階	温 度 (°C)	1	基準温度±2	2	最低使用温度±2	3	基準温度±2	4	最高使用温度±2
静電容量変化率(%)																			
電圧印加なし																			
X7R : ± 15																			
X7S : ± 22																			
X7T : + 22 - 33																			
X6T : + 22 - 33																			
段 階	温 度 (°C)																		
1	基準温度±2																		
2	最低使用温度±2																		
3	基準温度±2																		
4	最高使用温度±2																		
7	端子電極固着強度	端子電極の剥離、セラミックの切断および微候がないこと	<p>試料を付図-2に示す試験基板にリフロー方式にてはんだ付けを行う。 試験基板の中央に、試験基板の水平方向に加圧治具で加圧力を徐々に加える。 加圧力：5N 保持時間：10±1s.</p>																

表-1のつづき

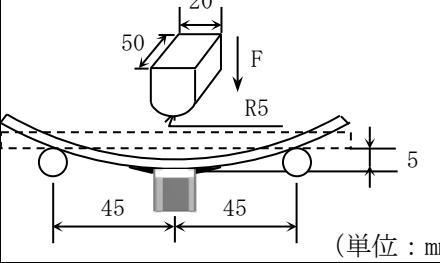
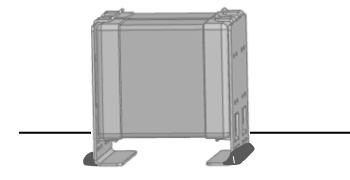
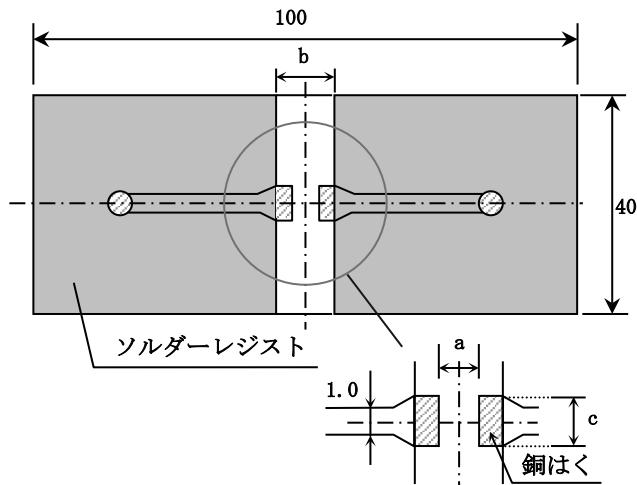
番号	性能項目		性 能	試験方法および条件															
8	たわみ	外 観	機械的損傷のないこと。	試料を付図-1に示す試験基板にリフロー方式にてはんだ付けを行う。  (単位 : mm)															
9	はんだ付け性		両方のキャップ表面のはんだ付け部分にはんだが良好に付着していること。又ピンホール、濡れ性不良及びはんだはじきが少なく、一ヶ所に集中しないこと。 	はんだ種類 : Sn-3.0Ag-0.5Cu 試料を付図-2に示す試験基板にリフロー方式にてはんだ付けする。 はんだ付け条件は、10. 使用上の注意のNo.5 はんだ付けをご参照下さい。															
10	耐振性	外 観	機械的損傷のないこと。	周 波 数 : 10~55~10Hz 往復掃引時間 : 1min. 全 振 幅 : 1.5mm 互いに垂直な3方向に2hずつ(計6h)行う。 試料を付図-2に示す試験基板にリフロー方式にてはんだ付けする。															
11	温度サイクル	外 観	機械的損傷のないこと。	下表に示す1~4各段階の温度に、順次規定時間放置する。 温度サイクル : 100サイクル <table border="1"><thead><tr> <th>段階</th><th>温度 (°C)</th><th>時間 (min)</th></tr></thead><tbody><tr> <td>1</td><td>最低使用温度±3</td><td>30±3</td></tr><tr> <td>2</td><td>常 温</td><td>2~5</td></tr><tr> <td>3</td><td>最高使用温度±2</td><td>30±2</td></tr><tr> <td>4</td><td>常 温</td><td>2~5</td></tr></tbody></table> 最低、最高使用温度につきましては、 2. 使用温度範囲をご参照下さい。 試験後の測定は常温常温中に24±2h放置後とする。 試料を付図-2に示す試験基板にリフロー方式にてはんだ付けする。	段階	温度 (°C)	時間 (min)	1	最低使用温度±3	30±3	2	常 温	2~5	3	最高使用温度±2	30±2	4	常 温	2~5
段階	温度 (°C)	時間 (min)																	
1	最低使用温度±3	30±3																	
2	常 温	2~5																	
3	最高使用温度±2	30±2																	
4	常 温	2~5																	

表-1のつづき

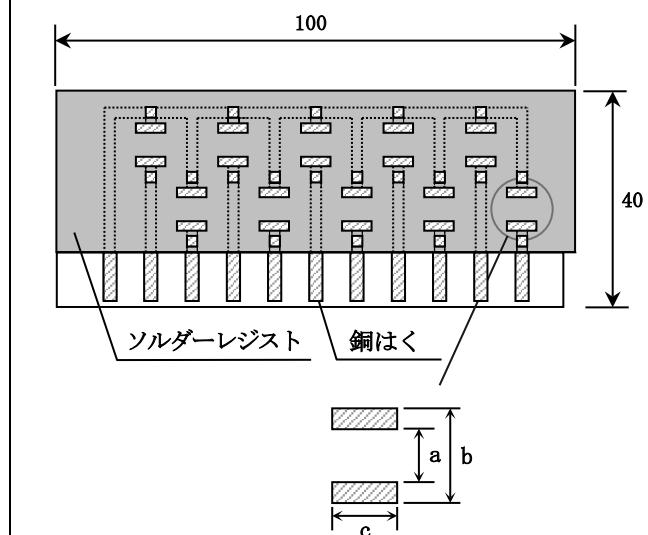
番号	性能項目		性 能	試験方法および条件	
12	耐湿負荷	外 観	機械的損傷のないこと。	試験温度 : 40±2°C 試験湿度 : 90~95%RH 印加電圧 : 定格電圧 試験時間 : 500 +24, 0h 充放電電流 : 50mA 以下	
			静電容量	<table border="1"> <tr> <td>特性</td> <td>試験前の値に対する変化</td> </tr> <tr> <td>X7R X7S X7T X6T</td> <td>営業担当者へお問い合わせください</td> </tr> </table>	特性
特性	試験前の値に対する変化				
X7R X7S X7T X6T	営業担当者へお問い合わせください				
$\tan \delta$	初期規格の 200%以下				
絶縁抵抗	25MΩ・μF 以上。				
13	高温負荷	外 観	機械的損傷のないこと。	試験温度 : 最高使用温度±2°C 試験電圧 : 営業担当者へお問い合わせください 試験時間 : 1,000 +48, 0h 充放電電流 : 50mA 以下 試験後の測定は常温常湿中に 24±2h 放置後とする。 試料を付図-2に示す試験基板にリフロー方式にてはんだ付けする。	
			静電容量	<table border="1"> <tr> <td>特性</td> <td>試験前の値に対する変化</td> </tr> <tr> <td>X7R X7S X7T X6T</td> <td>営業担当者へお問い合わせください</td> </tr> </table>	特性
特性	試験前の値に対する変化				
X7R X7S X7T X6T	営業担当者へお問い合わせください				
$\tan \delta$	初期規格の 200%以下				
絶縁抵抗	50MΩ・μF 以上。				

\* 表-1 の No. 6, 10, 11 のコンデンサの初期値測定は、150 0, -10°Cの温度で 1h 热処理を行い、常温常湿中に 24±2h 放置後とする。

付図-1

たわみ試験用基板

付図-2

プリント基板設計図

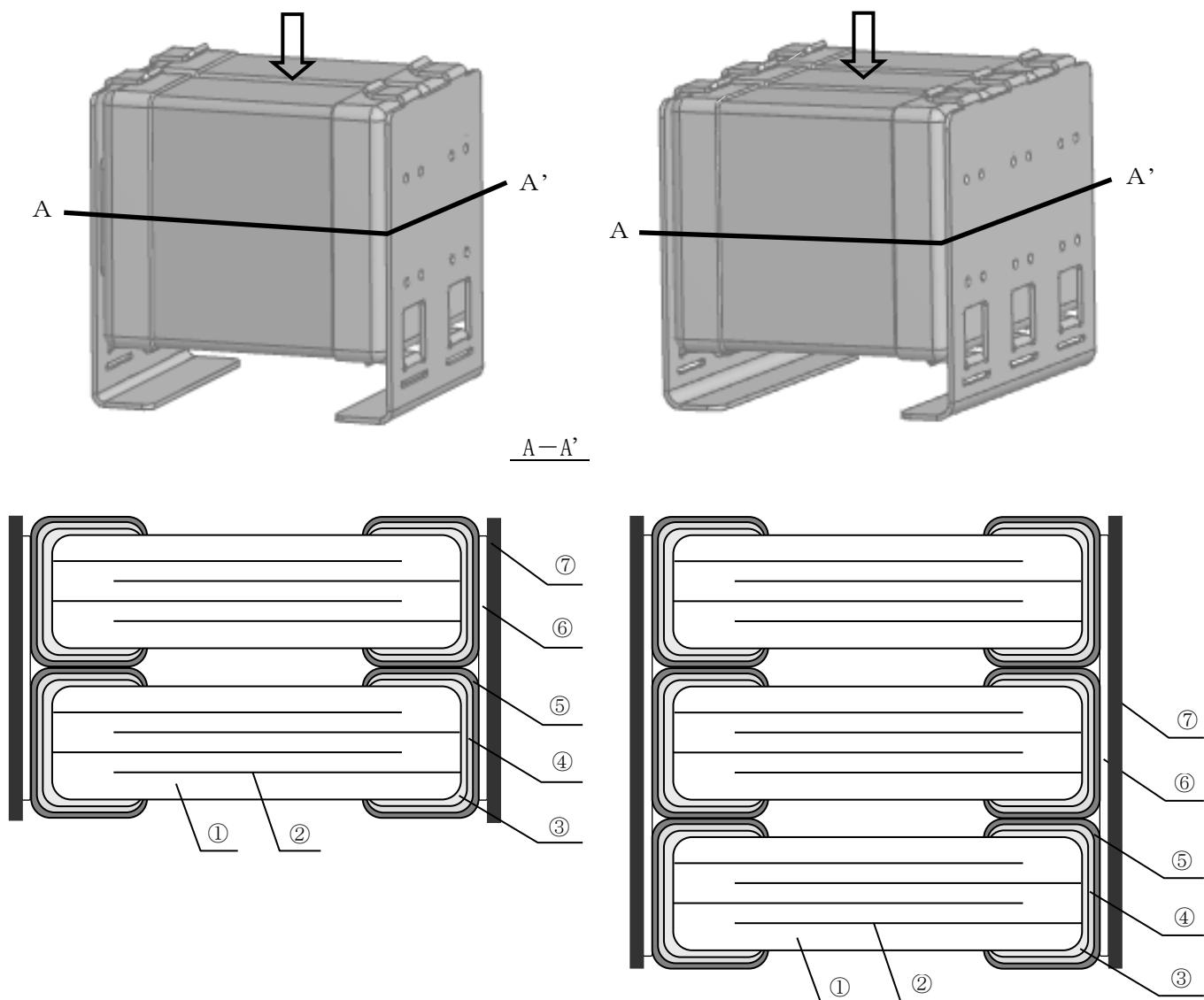
(単位 : mm)

形名	記号	a	b	c
CAA572		4.5	8.0	5.6
CAA573		4.5	8.0	8.1

1. 材質：ガラス布基材エポキシ樹脂(JIS C 6484に規定の種類 GE4相当)

2. 板厚：1.6mm

## 6. 内部構造図および使用材料



No.	呼 称	材 料
①	誘電体	BaTiO <sub>3</sub>
②	内部電極	ニッケル(Ni)
③	端子電極	銅(Cu)
④		ニッケル(Ni)
⑤		錫(Sn)
⑥	金属キャップ接合部	高温はんだ
⑦	金属キャップ	クラッド

## 7. 包装

包装は、輸送中又は保管中コンデンサに損傷の恐れのないようにし、下記事項を記載したラベルを添付する。

テーピング包装は 11. テーピング仕様による。

### ラベル記載事項

- 1) 検査番号 ※
- 2) 弊社品名
- 3) 部品番号（貴社品名）
- 4) 数量

#### ※ 検査番号の構成

(例)

F	5	A	-	2	3	-	0	0	1
(a)	(b)	(c)		(d)			(e)		

- (a) 検査工場名を表す
- (b) 検査年（西暦年の最終桁を表す）
- (c) 検査月（A, B, C…1, 2, 3 月，但し I は除く）
- (d) 検査日
- (e) 連番

#### ※ 新検査番号の構成（2019 年 5 月 1 日から順次対応）

(例)

I	F	5	E	2	3	A	0	0	1
(a)	(b)	(c)	(d)	(e)		(f)		(g)	

- (a) Prefix
- (b) 検査工場名を表す
- (c) 検査年（西暦年の最終桁を表す）
- (d) 検査月（A, B, C…1, 2, 3 月，但し I は除く）
- (e) 検査日
- (f) 連番(00～ZZ)
- (g) Suffix(00～ZZ)

※ 2019 年 5 月以降、新検査番号へ移行しておりますが、出荷拠点により運用開始時期が異なります。移行完了までの間は、従来構成又は新構成のいずれかの検査番号での運用となります。

## 8. 推奨条件

本製品をご採用の際は、はんだ付け後のフラックスの洗浄性を向上させる為、基板に 1mm 程度のスリットを入れることを推奨致します。

また、洗浄液は、完全に乾燥されていることをご確認の上、ご使用下さるようお願い致します。

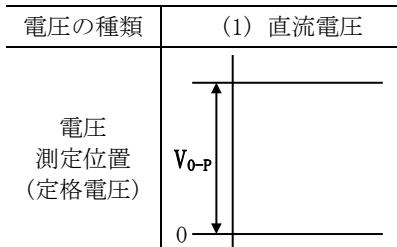
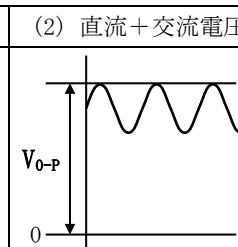
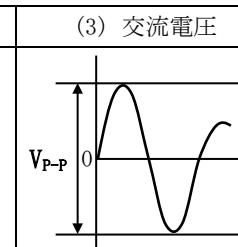
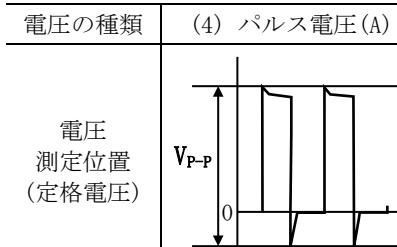
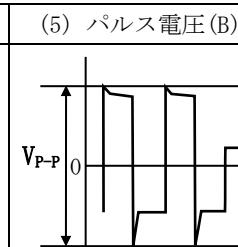
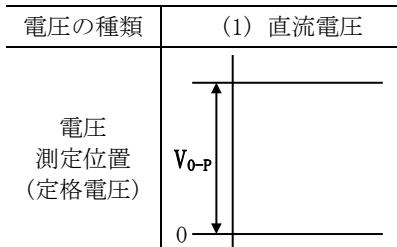
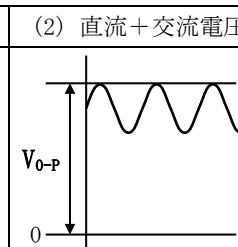
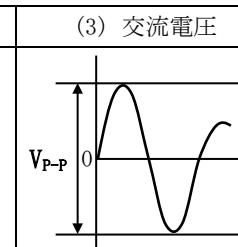
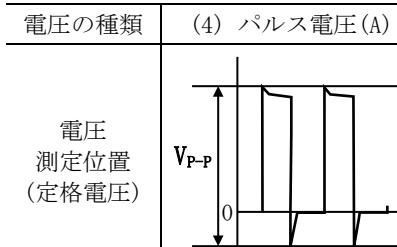
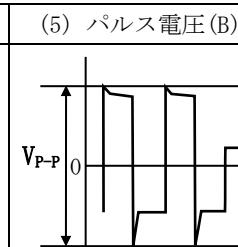
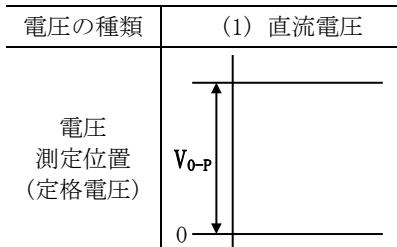
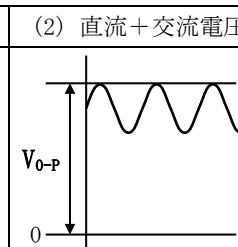
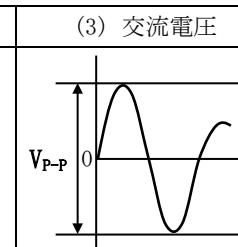
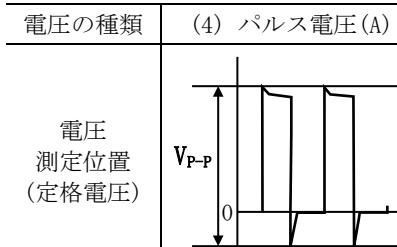
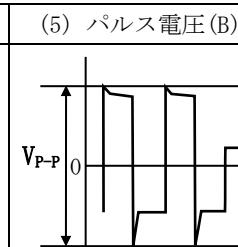
## 9. はんだ付け条件

はんだ付け方法は、リフロー方式に限定します。

推奨はんだ付け条件は 10. 使用上の注意の No. 5 はんだ付けをご参照下さい。

# 10. 使用上の注意

No.	工 程	条 件
1	使用環境 (貯蔵, 保管, 使用, 輸送)	<p>1-1. 貯蔵・保管・使用 コンデンサは、室内温度（5~40°C）、湿度（20~70%RH）の環境下で保管して下さい。その他の気象条件については JIS C 60721-3-1 の分類 1K2 によります。</p> <p>1) 高温高湿環境下では端子電極の酸化によるはんだ付け性の低下や、テーピング、パッケージングなどの性能劣化が加速される場合がある為、コンデンサは 6 ヶ月以内に使用して下さい。 また、銀パラジウムおよび銀を含む端子電極品は、酸化または硫化しやすいため開封後できるだけ早く（極力 1 ヶ月以内）使用して下さい。</p> <p>2) 6 ヶ月が過ぎたものは、はんだ付け性を確認の上、使用して下さい。 保管中は、最小包装単位は開封することなく、納入時の包装の状態で保管して下さい。 短時間であっても上記の温度および湿度条件から外れないようにして下さい。</p> <p>3) 大気中または雰囲気中の有害ガスによって、端子電極のはんだ付け性の劣化など信頼性を著しく低下させる可能性があります。 コンデンサは、腐食性ガス（硫化水素、二酸化イオウ、塩素、アンモニアなど）の雰囲気を避けて保管して下さい。</p> <p>4) 直射日光による端子電極の光化学変化や急激な湿度変化による結露から、はんだ付け性の劣化や性能劣化に至る場合がある為、直射日光や結露する場所に保管しないで下さい。 特に樹脂材料を使用している製品は、結露による吸湿で性能に影響を与える場合がある為、保管や移動などの取り扱い時は結露を避けてください。</p> <p>5) その他の気象条件については、JIS C 60721-3-1 の分類 1K2 によります。</p> <p>1-2. 輸送上の取扱い 1) コンデンサを輸送する場合、条件によって性能に影響を与える場合があります。 (JEITA RCR-2335C 9.2 輸送上の取扱い参照)</p>
2	回路設計  注意	<p>2-1. 使用温度</p> <p>1) コンデンサには、カテゴリ上限温度（最高使用温度）が設定されています。 使用温度以上の定格温度品を選定する必要があります。また、機器内の温度分布および季節的な温度変動要因も考慮する必要があります。</p> <p>2) コンデンサの表面温度は、自己発熱分も含み、最高使用温度以下にして下さい。 コンデンサには損失分があり、交流電流が流れることで等価直列抵抗によって自己発熱します。特に、高周波回路では自己発熱量が大きくなりますので注意して下さい。 また、コンデンサの表面温度が自己発熱分を含み、最高使用温度以下の場合でも自己発熱によるコンデンサの過度の発熱は、コンデンサの特性および信頼性の低下の原因となる場合があります。 コンデンサの自己発熱温度上昇値は、機器への取り付け方法、周囲温度、機器の冷却方式などによる放熱の違いによって変わります。 目安として、雰囲気温度25°Cでの自然対流環境におけるコンデンサの自己発熱温度上昇値が20°Cを超える場合はご相談ください。 高周波回路や高周波リップル電流が流れる等の、コンデンサが自己発熱する回路に使用される場合は、上記注意事項に關しご留意ください。（機器が冷却ファン等の自然対流以外の冷却を適用した状態での自己発熱測定では、正確な測定が出来ない場合がありますので、ご注意ください）</p>

No.	工 程	条 件														
2	回路設計 <b>△ 注意</b>	<p>3) コンデンサは温度変化によって電気的特性が変化しますので、機器内の温度変化を考慮したコンデンサの選定および設計をして下さい。</p> <p>2-2. 過電圧が印加された場合 コンデンサに過電圧が印加されると、誘電体の絶縁破壊による電気的ショートが発生する場合があります。尚、不具合に至るまでの時間は、印加電圧および周囲温度によって異なります。</p> <p>2-3. 使用電圧 1) コンデンサに印加される電圧は、定格電圧以下になるように設計して下さい。また、直流電圧に交流電圧が重畠されている電圧の場合は、尖頭電圧値(<math>V_{0-P}</math>)が定格電圧以下になるようにして下さい。—— (1), (2) 交流、又はパルス電圧の場合は、尖頭電圧の和(<math>V_{P-P}</math>)が定格電圧以下になるようにして下さい。—— (3), (4), (5) 電圧を印加または除去する際には過渡的に共振・サージなどの異常電圧が発生する場合があります。この異常電圧も含めて定格電圧以内となるようにご使用ください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>電圧の種類</th> <th>(1) 直流電圧</th> <th>(2) 直流+交流電圧</th> <th>(3) 交流電圧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電圧測定位置 (定格電圧)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>電圧の種類</th> <th>(4) パルス電圧(A)</th> <th>(5) パルス電圧(B)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電圧測定位置 (定格電圧)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 定格電圧以下でも、高周波電圧や急峻パルス電圧が連続印加される回路でご使用された場合は、コンデンサの信頼性が低下する場合があります。</p> <p>3) 直流・交流電圧を印加することによって静電容量が変化しますので、電圧特性を考慮したコンデンサの選定および設計をして下さい。</p> <p>4) 機器の通常の使用状態における印加電圧の他に、異常電圧（サージ電圧、静電気、スイッチ ON-OFF 時のパルスなど）の印加の可能性についても確認し、定格電圧以下にして下さい。</p> <p>5) コンデンサを直列に接続して使用する場合は、コンデンサに加わる電圧へのアンバランス分を考慮し、バランスを取り回路（分圧抵抗器など）を付加し、個々のコンデンサへの印加電圧が定格電圧以下になるようにして下さい。</p> <p>2-4. 使用周波数 コンデンサ（種類 2）を交流回路またはパルス回路で使用する場合、特定の周波数でコンデンサ自身が振動し、ノイズや音が発生する場合があります。</p>	電圧の種類	(1) 直流電圧	(2) 直流+交流電圧	(3) 交流電圧	電圧測定位置 (定格電圧)				電圧の種類	(4) パルス電圧(A)	(5) パルス電圧(B)	電圧測定位置 (定格電圧)		
電圧の種類	(1) 直流電圧	(2) 直流+交流電圧	(3) 交流電圧													
電圧測定位置 (定格電圧)																
電圧の種類	(4) パルス電圧(A)	(5) パルス電圧(B)														
電圧測定位置 (定格電圧)																

No.	工 程	条 件												
3	基 板 設 計	<p>コンデンサを基板に取付ける際、使用するはんだ量（フィレットの大きさ）は、取付け後のコンデンサに直接的な影響を与えますので、十分な配慮が必要です。</p> <p>1) はんだ量が多くなるに従ってコンデンサに加わるストレスが大きくなり、破損及びクラック発生、割れなどの原因になりますので、基板のランド設計に際しては、はんだ量が適正となるように形状及び寸法を設計して下さい。</p> <p>2) 共通ランドに 2 個以上の部品を取付ける場合は、ソルダーレジストでそれぞれの部品用の専用ランドとなるよう分離して下さい。</p> <p>3) 形状と推奨ランド寸法</p> <table border="1" style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <caption>(単位 : mm)</caption> <thead> <tr> <th>記号 \ 形名</th> <th>CAA572</th> <th>CAA573</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>4.3~4.7</td> <td>4.3~4.7</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>1.5~2.0</td> <td>1.5~2.0</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>5.2~5.7</td> <td>7.9~8.4</td> </tr> </tbody> </table>	記号 \ 形名	CAA572	CAA573	A	4.3~4.7	4.3~4.7	B	1.5~2.0	1.5~2.0	C	5.2~5.7	7.9~8.4
記号 \ 形名	CAA572	CAA573												
A	4.3~4.7	4.3~4.7												
B	1.5~2.0	1.5~2.0												
C	5.2~5.7	7.9~8.4												

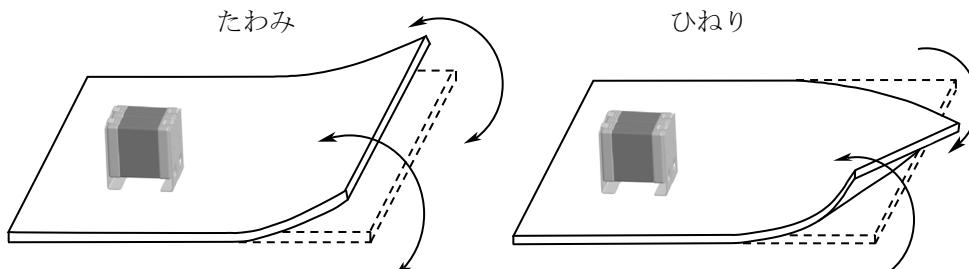
No.	工 程	条 件	
3	基 板 設 計	4) 基板のそり・たわみに対して極力ストレスが加わらないようなコンデンサ配置の推奨例を次に示します。	
		基板のたわみ応力に対し不利な事例	基板のたわみ応力に対し有利な事例
	はんだ付け面の方向性	<p>ミシン目 or スリット</p> <p>はんだ付け面を上面として山折りする。</p>	<p>ミシン目 or スリット</p> <p>はんだ付け面を下面として山折りする。</p>
	チップ配置(方向性)	<p>ミシン目やスリットに対し垂直方向に装着されている。</p> <p>ミシン目 or スリット</p>	<p>ミシン目やスリットに対し平行方向に装着されている。</p> <p>ミシン目 or スリット</p>
	ミシン目やスリット部分からの距離	<p>ミシン目やスリットに近い場所は不利である。</p> <p>( <math>l_1 &lt; l_2</math> )</p>	<p>ミシン目やスリットに遠い場所ほど有利である。</p> <p>( <math>l_1 &lt; l_2</math> )</p>

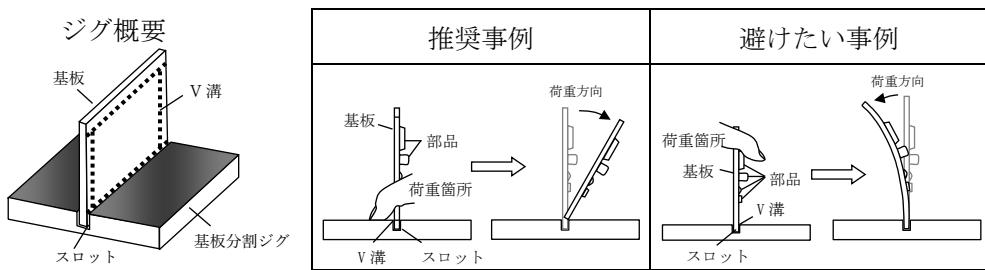
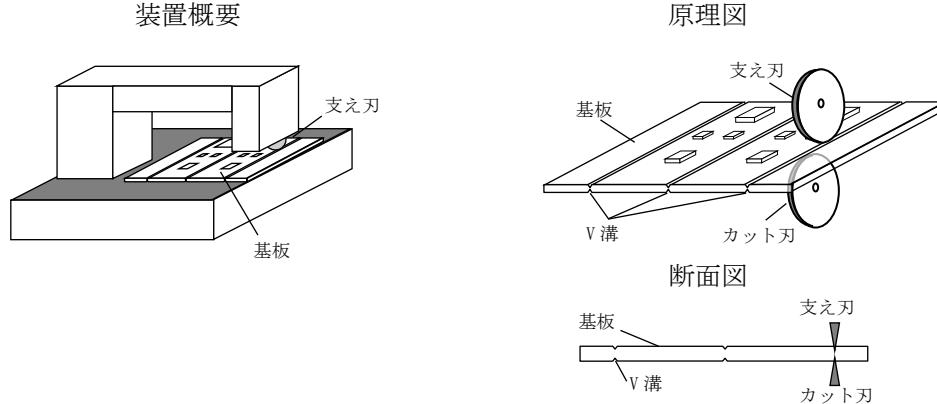
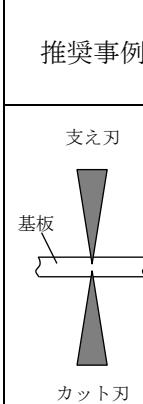
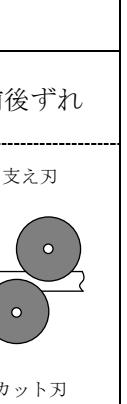
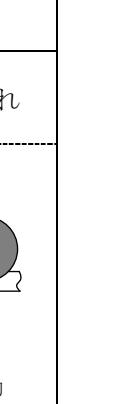
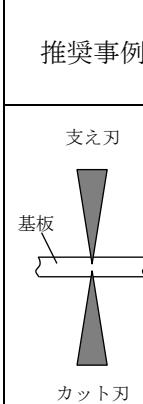
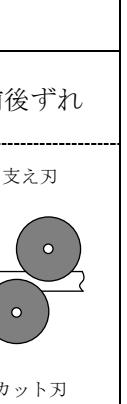
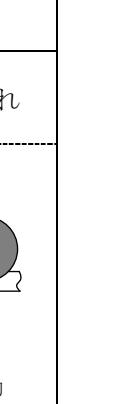
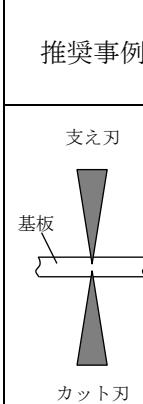
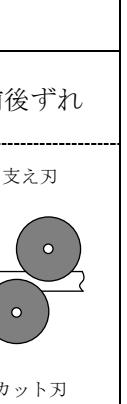
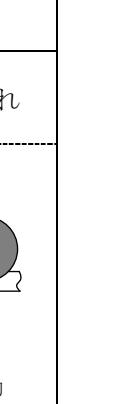
No.	工 程	条 件												
3	基 板 設 計	<p>5) 割板近辺では、コンデンサの取付け位置によって、機械的応力が変化しますので、次の図を参考にして下さい。</p> <p>ストレスの大きさ A&gt;B&gt;E A&gt;D&gt;E A&gt;C</p> <p>基板分割時のコンデンサが受ける機械的ストレスは、<math>\text{P} \times \text{S} \times \text{U} &lt; \text{スリット} &lt; \text{V溝} &lt; \text{ミシン目の順に大きくなります。したがって、コンデンサの配置と同時に分割方法も考慮して下さい。}</math></p> <p>6) 避けたい事例及び推奨事例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事 例</th> <th>ディスクリート部品のリード線とランドが共用</th> <th>シャーシ近辺の配置</th> <th>チップ部品同士の配置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>避けて頂きたい例</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>改善例 (ランド分割)</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	事 例	ディスクリート部品のリード線とランドが共用	シャーシ近辺の配置	チップ部品同士の配置	避けて頂きたい例				改善例 (ランド分割)			
事 例	ディスクリート部品のリード線とランドが共用	シャーシ近辺の配置	チップ部品同士の配置											
避けて頂きたい例														
改善例 (ランド分割)														

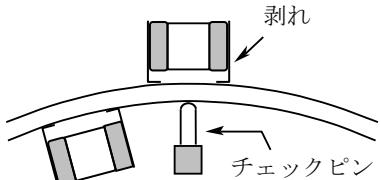
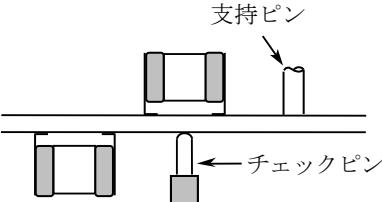
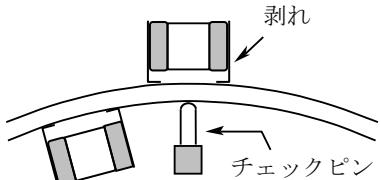
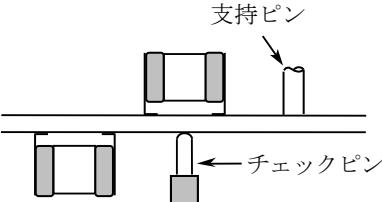
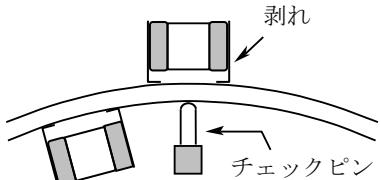
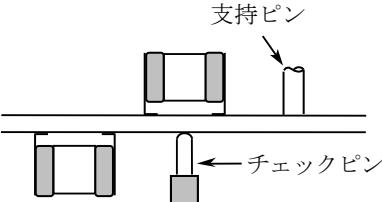
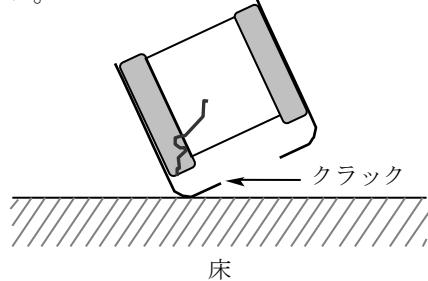
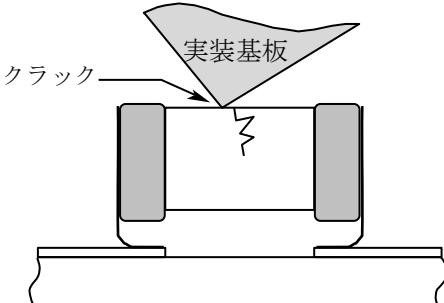
No.	工 程	条 件									
4	装 着	<p>4-1. 装着ヘッドの圧力 吸着ノズルの下死点が低すぎる場合は、実装時、コンデンサに過大な力が加わり、割れの原因となりますので、次の事を参考にしてご使用下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 吸着ノズルの下死点は、基板がそらないように基板上面に設定し調整して下さい。</li> <li>2) 実装時のノズル圧力は、静荷重で1~3Nとして下さい。</li> <li>3) 吸着ノズルの衝撃で基板のたわみを極力小さくする為に、基板裏面に支持ピンをあてがい、基板のたわみを押さえて下さい。 その代表例を次に示します。</li> </ol> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;"> </th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">避けたい事例</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">推奨事例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">片面実装</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">両面実装</td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">位置決め爪が摩耗してくると位置決めの際、コンデンサに加わる機械的衝撃が局部的になり、コンデンサが欠けたり、クラックの発生する場合がありますので、位置決め爪の閉じ切り寸法を管理することと、位置決め爪の保守・点検及び交換は定期的に行って下さい。</p>		避けたい事例	推奨事例	片面実装			両面実装		
	避けたい事例	推奨事例									
片面実装											
両面実装											

No.	工 程	条 件																
5	はんだ付け	<p>5-1. フラックスの種類 フラックスはコンデンサの性能に重大な影響をおよぼす場合がありますので、次のことを確認してからご使用下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フラックスは、ハロゲン系物質含有量が 0.1wt% (C0換算) 以下のものを使用して下さい。 また、酸性の強いものは使用しないで下さい。</li> <li>2) コンデンサを基板にはんだ付けする際のフラックスは、必要最小限の量を塗布して下さい。</li> <li>3) 水溶性フラックスを使用される場合は、特に十分な洗浄を行って下さい。</li> </ol> <p>5-2. リフローはんだ付け方式の推奨温度プロファイル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) はんだ付け条件（予熱温度、はんだ付け温度及びそれらの時間）は、納入仕様書に規定されたリフロー方式を限定とします。</li> <li>2) 基板にはんだペーストを塗布してからコンデンサを装着するまでの時間はできるだけ短時間にするようにして下さい。</li> </ol> <p style="text-align: center;"><b>リフローはんだ付け</b></p> <p style="text-align: center;">最高温度 (°C) 温度 0 △T 予熱 60~120 秒 時間</p> <p>5-3. はんだ付けの推奨ピーク温度とピーク温度キープ時間 無鉛はんだを推奨しますが、やむを得ず Sn-37Pb はんだを使用する場合は、以下を参考にして下さい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>条件 種類</th> <th colspan="2">リフローはんだ付け</th> </tr> <tr> <th></th> <th>最高温度 (°C)</th> <th>時間(秒)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>無鉛はんだ</td> <td>260 以下</td> <td>10 以内</td> </tr> <tr> <td>Sn-Pb はんだ</td> <td>230 以下</td> <td>20 以内</td> </tr> </tbody> </table> <p>『推奨はんだの組成』 無鉛はんだ : Sn-3.0Ag-0.5Cu</p> <p>5-4. 热衝撃に対する配慮</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予熱条件</li> </ol> <table border="1"> <thead> <tr> <th>はんだ付け方式</th> <th>許容温度差 (°C)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リフロー</td> <td><math>\Delta T \leq 130</math></td> </tr> </tbody> </table> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 徐冷条件 空気中での自然冷却をおすすめしますが、洗浄等の目的で溶剤に浸せきする場合には、温度差 (<math>\Delta T</math>) が 100°C 以下になるようにして下さい。</li> </ol>	条件 種類	リフローはんだ付け			最高温度 (°C)	時間(秒)	無鉛はんだ	260 以下	10 以内	Sn-Pb はんだ	230 以下	20 以内	はんだ付け方式	許容温度差 (°C)	リフロー	$\Delta T \leq 130$
条件 種類	リフローはんだ付け																	
	最高温度 (°C)	時間(秒)																
無鉛はんだ	260 以下	10 以内																
Sn-Pb はんだ	230 以下	20 以内																
はんだ付け方式	許容温度差 (°C)																	
リフロー	$\Delta T \leq 130$																	

No.	工 程	条 件
5	はんだ付け	<p>5-5. はんだ量</p> <p>はんだ付け時のはんだ盛量が過多になると、はんだの収縮応力によって機械的・熱的ストレスを受けやすくチップ割れの原因となります。</p> <p>また、はんだ盛量が過少になると、端子電極固着力が不足し、チップ脱落の原因となり、回路の信頼性に影響を及ぼす場合もあります。</p> <p>はんだ盛量の代表例を次に示します。</p> <hr/> <hr/> <p>5-6. Sn-Zn 系はんだ</p> <p>Sn-Zn 系はんだは、コンデンサの信頼性に悪影響を与えます。 Sn-Zn 系はんだをご使用される際は、事前に当社までご連絡ください。</p> <p>5-7. チップ立ちを防ぐ対策事例</p> <p>コンデンサのランドに対する装着時の位置ずれは、できる限り小さくなるように配慮して下さい。コンデンサの装着方向が、リフロー方向(基板進行方向)と合致する場合に特にチップ立ちが発生しやすい傾向があります。 JEITA RCR-2335C 付属書A チップ立ち(ツームストーン現象)を防ぐ対策事例を参考下さい。</p> <p>5-8. その他はんだ付けに関する注意事項</p> <p>はんだコテなどで一度取り外した製品の再使用はしないでください。 また、本製品ははんだコテでの実装は保証できません。</p>

No.	工 程	条 件
6	洗 済	<p>1) 洗浄液が不適切な場合は、フラックスの残渣やその他の異物がコンデンサの表面に付着し、コンデンサの性能（特に絶縁抵抗）を劣化させる場合があります。</p> <p>2) 洗浄条件が不適切（洗浄不足、洗浄過剰）な場合は、コンデンサの性能を損なう場合があります。</p> <p>2)-1. 洗浄不足の場合</p> <p>(1) フラックス残渣中のハロゲン系の物質によって、端子電極などの金属が腐食を生じる場合があります。</p> <p>(2) フラックス残渣中のハロゲン系の物質が、コンデンサの表面に付着し、絶縁抵抗を低下させる場合があります。</p> <p>(3) 水溶性フラックスは、ロジン系フラックスに比べて(1)及び(2)の傾向が顕著な場合があります。</p> <p>2)-2. 洗浄過剰の場合</p> <p>超音波の場合、出力が大き過ぎたり基板に直接振動が伝わると基板が共振し、基板の振動でコンデンサの本体やはんだにクラックが発生したり、端子電極の強度を低下させる場合がありますので、次の条件で行って下さい。</p> <p style="text-align: center;">超 音 波 出 力 : 20 W/ℓ以下 超 音 波 周 波 数 : 40 kHz 以下 超 音 波 洗 浄 時 間 : 5 分 間 以 下</p> <p>2)-3. 洗浄液が汚濁すると、遊離したハロゲンなどの濃度が高くなり、洗浄不足と同様の結果を招く場合があります。</p>
7	樹脂コーティング及びモールド	<p>1) コンデンサを樹脂コーティングする場合は実際の機器で品質面の影響を確認して下さい。</p> <p>2) 樹脂の硬化過程又は自然放置の状態で、有害な分解ガスや反応ガスが発生しますとコンデンサに悪影響をおよぼすこともありますので発生しない事を十分に確認して下さい。</p> <p>3) 樹脂の硬化温度を確認して下さい。</p>
8	部品実装後の基板取扱い  注意	<p>1) 基板を分割する際に、基板に次のようにたわみやひねりなどのストレスを与えますと、コンデンサにクラックが発生する場合がありますので、極力ストレスを加えないようにして下さい。</p> 

No.	工 程	条 件													
8	部品実装後の基板取扱い 	<p>2) 基板分割時は、手割りを避ける専用治工具などで行ってください。</p> <p>基板を分割する際には、できるだけ基板に機械的ストレスが加わらないようにするため、手割りを避け、次の図に示す基板分割ジグまたは基板分割装置などを使用してください。</p> <p>(1) 基板分割ジグの例</p> <p>基板分割ジグの概要を次に示します。推奨事例として、荷重箇所は基板がたわまないジグに近い部分を持ち、部品が付いていない基板面から押して、コンデンサなどの部品には圧縮応力になるように分割します。</p> <p>また、避けたい事例として、荷重箇所が基板がたわみやすいジグから遠い部分を持った場合、コンデンサに引張り応力が加わり、クラックが発生する原因となります。</p>  <p>(2) 基板分割装置の例</p> <p>基板分割装置の概要を示します。また、原理図のように基板のV溝に支え刃とカット刃を沿うように合わせて、基板を分割します。避けたい事例として、上下の刃が、上下、左右、前後にずれるなどの調整が適切でない場合、コンデンサにクラックが発生する原因となります。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">推奨事例</th> <th colspan="3">避けたい事例</th> </tr> <tr> <th>上下ずれ</th> <th>左右ずれ</th> <th>前後ずれ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	推奨事例	避けたい事例			上下ずれ	左右ずれ	前後ずれ						
推奨事例	避けたい事例														
	上下ずれ	左右ずれ	前後ずれ												
															
															

No.	工 程	条 件						
8	部品実装後の基板取扱い  注意	<p>3) 基板ごとの動作チェックする際、ボードチェックバーのチェックピンの接触不良を防ぐ為に、チェックピンの押し圧を強くする場合があります。その時の荷重で基板がたわみ、その応力でコンデンサが割れたり、また端子電極のはんだが剥がれる場合もありますので、次の図を参考にして基板がたわまないようにして下さい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; padding: 5px;">項 目</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">避けたい事例</th> <th style="text-align: center; padding: 5px;">推奨事例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">基板のたわみ</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">  </td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">  </td> </tr> </tbody> </table>	項 目	避けたい事例	推奨事例	基板のたわみ		
項 目	避けたい事例	推奨事例						
基板のたわみ								
9	単品部品の取扱い	<p>1) コンデンサは落下衝撃により、破損やクラックが入る場合がありますので、落下したコンデンサは使用しないで下さい。 特に、形状の大きいコンデンサは破損やクラックが入りやすい傾向にありますのでご注意下さい。</p>  <p>2) 実装後の基板の積み重ね保管や取扱い時に、基板の角がコンデンサに当たり、その衝撃で破損やクラックが発生し、絶縁抵抗の低下などに至る場合もあります。</p> 						
10	コンデンサの静電容量の経時変化	コンデンサには、静電容量の経時変化（エーティング特性）があります。時定数回路には使用できない場合がありますので、サンプル等でご確認下さい。						
11	コンデンサの推定寿命および推定故障率	<p>コンデンサの推定寿命または推定故障率は、温度と電圧に依存し加速寿命式（JEITA RCR-2335C 付属書F参照）より算出できます。（電圧加速係数3乗則、温度加速係数10°C則）</p> <p>温度および電圧を低減することで故障率を低下する事ができますが、寿命または故障率を保証するものではありません。</p>						

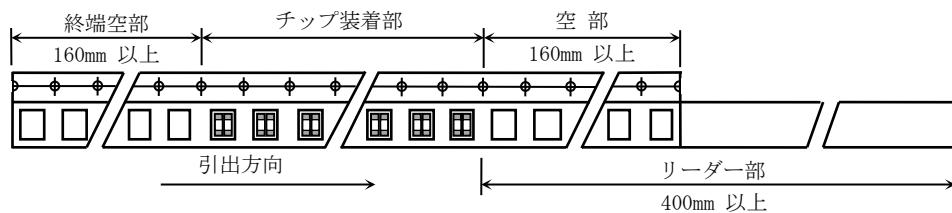
No.	工 程	条 件
12	機器稼働中の確認事項	<p>1) 機器稼働中は、コンデンサに直接手を触れないでください。 機器稼働中にコンデンサに端子に触ると感電する場合があります コンデンサには、電荷が蓄えられており、人体を伝わって放電します。 なお、無通電中でもコンデンサに電荷が蓄えられている場合があるので、コンデンサに触れる場合には、放電抵抗を用いて完全に放電した後に行ってください。</p> <p>2) コンデンサの端子間を導電体でショートさせないでください。 また、酸、アルカリ水溶液などの導電性溶液をコンデンサにかけないでください。 機器稼働中に導電体でコンデンサの端子間をショートさせたり、コンデンサに酸、アルカリなどの電性の水溶液をかけると、回路がショート状態となり、コンデンサが破壊する場合があります。</p> <p>3) コンデンサを取り付けたセットの設置環境及び稼働環境を確認してください。 次の環境下では、機器は使用しないでください。            ①コンデンサに、水分又は油がかかる環境。            ②コンデンサに、直接日光が当たる環境。            ③コンデンサに、オゾン、紫外線及び放射線が照射される環境            ④腐食性ガス（硫化水素、二酸化イオウ、塩素アンモニアなど）に晒される環境。            ⑤振動又は衝撃条件がコンデンサのカタログ又は納入仕様書に既定の値を超える環境。            ⑥結露するような環境の変化。</p>
13	その他  注意	<p>本仕様書に記載の製品は、一般電子機器（AV機器、通信機器、家電機器、アミューズメント機器、コンピュータ機器、パーソナル機器、事務機器、計測機器、産業用ロボット）に汎用標準的な用途で使用され、また、当該一般電子機器が、通常の操作、使用方法で用いられる意図を示しています。高度な安全性や信頼性が必要とされ、または機器の故障、誤動作、不具合が人への生命、身体や財産等に損害を及ぼす恐れがあり、もしくは社会的影響が甚大となる恐れのある以下の用途（以下特定用途）への適合性、性能発揮、品質を保証するものではありません。本仕様書の範囲、条件を超え、または特定用途に使用されたことにより発生した損害等については、その責任を負いかねますのでご了承願います。本仕様書の範囲、条件を超え、または特定用途での使用を予定されている場合、事前に弊社窓口までご相談ください。お客様の用途に合わせ、本仕様書掲載の仕様とは別の仕様について協議させていただきます。</p> <p>①航空、宇宙機器            ②輸送用機器（自動車、電車、船舶等）            ③医療用機器（薬事法分類 クラス I, II を除く）            ④発電制御用機器            ⑤原子力関係機器            ⑥海底機器            ⑦交通機関制御機器            ⑧公共性の高い情報処理機器            ⑨軍事用機器            ⑩電熱用品、燃焼機器            ⑪防災、防犯機器            ⑫各種安全装置            ⑬その他特定用途と認められる用途</p> <p>なお、本製品を使用する機器の設計にあたっては、当該機器の使用用途および態様に応じた保護回路・装置の確保やバックアップ回路を設ける等してください。</p>

## 1.1. テーピング仕様

### 1. テーピングの寸法及び構成

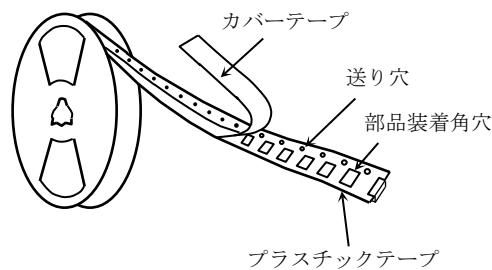
1-1. テーピングの寸法  
付図-3による。

1-2. リーダー部テープ及び終端部テープ



1-3. リール寸法  
付図-4による。

1-4. テーピングの構成



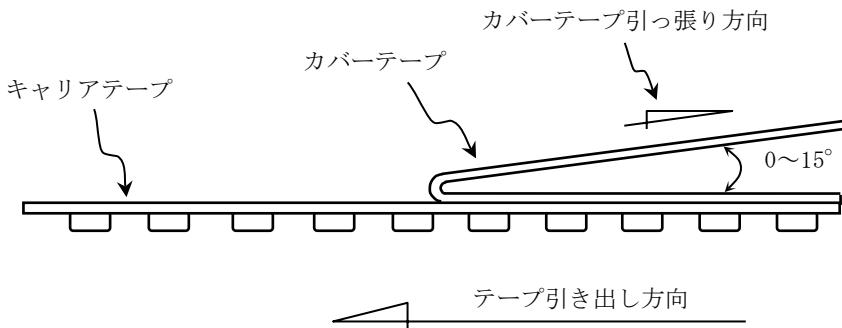
### 2. テーピングの数量

詳細につきましては、TDK web をご参照下さい。

### 3. テーピングの性能

#### 3-1. カバーテープ剥離強度

$$0.05N < \text{剥離強度} < 0.7N$$



#### 3-2. 最小曲げ半径

テーピングは半径 30mm で曲げてもチップの脱落やキャリアテープの破損などの異常が  
あってはならない。

#### 3-3. 部品の欠落数

部品の欠落数は、リールの総部品数の 0.1% 以下とする。

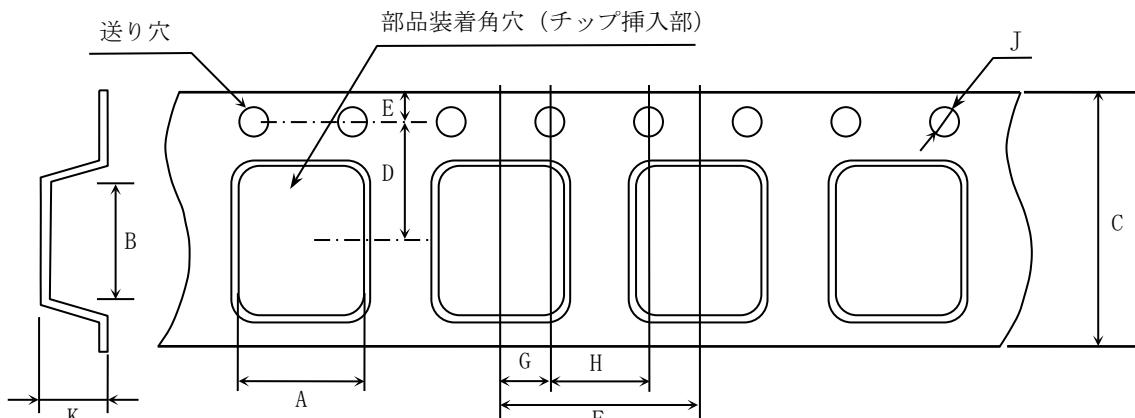
#### 3-4. チップのカバーテープへの付着

チップはカバーテープに付着せず、フリーな状態にあることとする。

#### 3-5. 角穴のバリなど

カバーテープを剥がした時、チップコンデンサは角穴とのクリアランスやバリ、ツブレなどのために取り出しが困難であったり、吸着ノズルにキャリアテープのくずが吸着してノズル穴を埋めてしまうなどの無きこととする。

付図-3

プラスチックテープ

(単位 : mm)

記号 形名	A	B	C	D	E	F
CAA572	(5.30)	(6.40) *1 (6.65)				
CAA573	(6.40) *2 (6.68)	(7.75) (7.80)	16.0±0.30	7.50±0.10	1.75±0.10	12.00±0.10

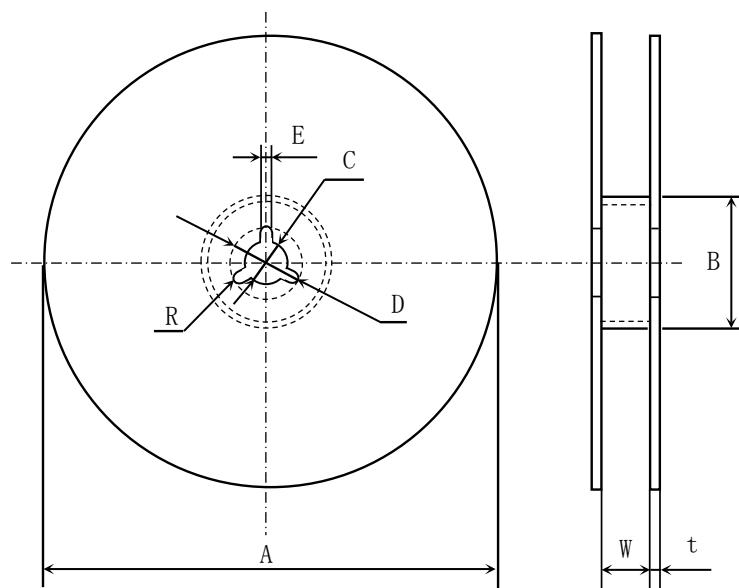
記号 形名	G	H	J	K
CAA572	2.00±0.10	4.00±0.10	$\phi 1.50^{+0.1}_0$	
CAA573				7.10 max.

( ) 内は参考値とする。

\*1 は CAA572X7R1H(1V)476M, CAA572X7R1E(1V)107M に適用。

\*2 は CAA573X7R1H(1V)686M, CAA573X7R1E(1V)157M に適用。

付図-4

リール寸法 (材質: ポリスチレン)

(単位 : mm)

記号	A	B	C	D	E	W
寸法	$\phi 382$ 以下 (公称 $\phi 330$ )	$\phi 50$ 以上	$\phi 13 \pm 0.5$	$\phi 21 \pm 0.8$	$2.0 \pm 0.5$	$17.5 \pm 1.5$
記号	t R					
寸法	$2.0 \pm 0.5$ 1.0					